

リスク管理

都心の小学校の廃校が進み、団地の公園から子供たちの声が消えて久しい。学校や公園など、地域コミュニティの求心性や出会い機能を担ってきた施設の変化に見られるように、「少子化」は地域社会の運営にも大きな影響を与えることになる。

◇

乳幼児のちょっとした熱で救急車が出動する

(図)、学童の減少により「運動会」で綱引きが出来ない、子供神輿の担ぎ手がなく神社の祭りが盛り上がらないなど、若年人口の減少は、地域社会において、医療・防災・文化継承等の面を中心に、地縁(コミュニティ)機能を低下させる要因となる。

従来こうした問題は、過疎地や都心固有の問題

リスクマネジメント

A B C

少子化と地縁機能低下

救急車による傷病程度割合(05年度)

(単位:%)

	死亡	重症	中等症	軽症	その他
新生児	0.7	19.5	59.6	19.1	1.1
乳幼児	0.2	1.6	17.4	80.6	0.2
少年	0.2	2.7	20.8	76.2	0.1
成人	0.8	6.4	29.8	62.8	0.2
高齢者	2.3	14.8	47.5	35.2	0.2

(資料)消防庁「06年版救急・救助の現況」07年1月。なお、乳幼児とは、生後28日以上満7歳未満

長期に造成された大都市近郊のニュータウンでは、街に子供や若者が少なく高齢者ばかりになり、今までの清掃や草刈りなどのコミュニティ活動が円滑に出来なくなることで、急速にスラム化しているケースが見られる。このような場所は、地域における非行や犯罪の温床となるリスクばかりでなく、その対応のために必要となる財政負担が、地方自治体の財政運営をさらに圧迫するリスク要因ともなる。

一方、地域における連帯感の希薄化や核家族化

では、地域社会の役割として、夫婦が就業と子育てを両立出来るように、地域全体として子育て機能の一部を担うことが不可欠となる。子育てに慣れた夫婦の精神的負担を和らげるため、「おばあちゃんの知恵」などの育児相談機能を、地縁社会が発揮する必要がある。幸いなことに07年以降、団塊世代の定年に伴って、元気で社会参加性の高いシニア層が、大量に地域に戻ってくる。国としては、現在の保育園制度改革に取り組み必要があるが、地域としても、乳幼児を持った若い母親に育児ノウハウを教える、学童に遊びを教える、などの地域ボランティア活動を活性化させ、地縁機能を高める必要がある。

子育て機能、地域で担う

(日本総合研究所)